

---

# 日本語のローマ字表記の推奨形式

東京大学教養学部英語部会／教養教育開発機構

英語の文章中に日本語の単語や人名・地名などが出てくるときには、日本語の発音を英語のアルファベットで表記する一般的な形式を、一貫して使用しなければなりません。ここでは、日本語のローマ字表記の主な形式をいくつか比較し、その中から推奨しうる一つの形式を詳しく解説します。

## ▶ 訓令式とヘボン式

主なローマ字表記の伝統的な形式は主に二つあり、それぞれ**訓令式**と**ヘボン式**と呼ばれています。これらの形式についてのより詳細な情報は、*Japan Style Sheet* (Society of Writers, Editors and Translators, 1998) にあります。近年では第三の、非公式な形式が出てきています。ここではそれを**ワープロ式**と呼ぶことにします。

訓令式とヘボン式の主な違いは下の表のようなものです。

	訓令式	ヘボン式
し	si	shi
じ	zi	ji
ち	ti	chi
つ	tu	tsu
ふ	hu	fu
しゃ	sya	sha
じゃ	zya	ja
ちゃ	tya	cha
しゅ	syu	shu
じゅ	zyu	ju
ちゅ	tyu	chu
しよ	syo	sho
じよ	zyo	jo
ちよ	tyo	cho

訓令式は日本の小学校の多くで教えられている形式です。国際標準化機構によって採用されており（ISO 3602 という国際基準）、学術論文や日本語教育で使用されることもあります。ヘボン式のローマ字表記は、日本政府がパスポートや多くの国際交流の場で使用しており、学術論文向けに推奨されるものです。日本でも他の国々でも、英語の出版物でもっとも広く使われている形式です。

どちらの形式にも長所と短所があります。訓令式は日本語のかなと英語の文字とが、より厳密な一対一対応になっています。たとえば、た、ち、つ、て、と、という「た行」の音は、ta, ti, tu, te, to のように、すべて t の文字で表されており、日本語の母語話者にとって覚えやすくなっています。一方、日本語を知らない英語話者にとっては、ヘボン式のローマ字表記 (ta, chi, tsu, te, to) のほうが、実際の音を正確に推測しやすいのです。「ちかてつ」という言葉が訓令式で *tikatetu* と表記された場合、大抵の英語話者はすべての t の音を英語の “t” のように発音してしまい、「ち」や「つ」の音を再現できません。ヘボン式表記の *chikatetsu* なら、日本語により近い発音をすることができます。

ワープロ式は、コンピュータで（かな入力ではなく）ローマ字入力で日本語を打ち込む際の方法に基づいています。たとえば「じゅうよう」は、J-U-U-Y-O-U と入力します。この方法に慣れたためか、今では多くの人が「じゅうよう」という単語をローマ字表記する際、（訓令式の *zyūyō*, ヘボン式の *jūyō* のように）長音記号を使わずに、母音をひとつ増やして *juuyou* と表記する傾向がみられます。また、「ん」という音節は N-N と打ち込まなければならないことが多いため、多くの人が「けいひん」のような単語を *Keihinn* と綴っています。このワープロ式は電子メールやその他の非公式な場面では便利ですが、主な刊行物で正式に採用されてはいませんし、学術論文には不向きです。

どのローマ字表記形式を使用するにしても、たくさんの日本語をローマ字表記しなくてはいけないとなると、長母音や単語の区切り方などを表す際、多くの困難な問題に直面するでしょう。特別な理由から選択したいと思うローマ字表記形式があるのでなければ、以下で説明する、ヘボン式を基本とした形式を使用することを推奨します。

## ▶ ヘボン式を基本とした推奨形式

### ▷ 音節

あ	a	い	i	う	u	え	e	お	o
か	ka	き	ki	く	ku	け	ke	こ	ko
が	ga	ぎ	gi	ぐ	gu	げ	ge	ご	go
さ	sa	し	shi	す	su	せ	se	そ	so
ざ	za	じ	ji	ず	zu	ぜ	ze	ぞ	zo
た	ta	ち	chi	つ	tsu	て	te	と	to
だ	da	ぢ	ji	づ	zu	で	de	ど	do
な	na	に	ni	ぬ	nu	ね	ne	の	no
は	ha	ひ	hi	ふ	fu	へ	he	ほ	ho
ば	ba	び	bi	ぶ	bu	べ	be	ぼ	bo
ぱ	pa	ぴ	pi	ぷ	pu	ぺ	pe	ぽ	po
ま	ma	み	mi	む	mu	め	me	も	mo
や	ya			ゆ	yu			よ	yo
ら	ra	り	ri	る	ru	れ	re	ろ	ro
わ	wa			を	o			ん	n または n'

---

きや	kya	きゆ	kyu	きよ	kyo
ぎや	gya	ぎゆ	gyu	ぎよ	gyo
しや	sha	しゆ	shu	しよ	sho
じゃ	ja	じゆ	ju	じよ	jo
ちや	cha	ちゆ	chu	ちよ	cho
ぢや	ja	ぢゆ	ju	ぢよ	jo
にや	nya	にゆ	nyu	によ	nyo
ひや	hya	ひゆ	hyu	ひよ	hyo
びや	bya	びゆ	byu	びよ	byo
ぴや	pya	ぴゆ	pyu	ぴよ	pyo
みや	mya	みゆ	myu	みよ	myo
りや	rya	りゆ	ryu	りよ	ryo

				イエ	ye		
		ウイ	wi	ウエ	we	ウオ	wo
ヴァ	va	ヴィ	vi	ヴェ	ve	ヴォ	vo
		スイ	si	シェ	she		
		ズイ	zi	ジェ	je		
		テイ	ti	トゥ	tu	チェ	che
		デイ	di	ドウ	du	ヂェ	je
ファ	fa	フィ	fi	フェ	fe	フォ	fo

## ▷ 長母音

日本語を知っている人を含む読者に向け、日本の話題について書く際には、長母音は長音記号を用いて表します。

おかあさん okāsan  
キーキー (擬音) kīkī  
くうかい (空海) Kūkai  
ケーキ kēki  
とおり (通り) tōri

「けい」、「せい」などのようなかなの組み合わせは、「けえ」、「せえ」のように発音されることがありますが、日本語のかな表記に合わせて ei と綴ります。

けいざい (経済) keizai  
せいふ (政府) seifu  
メイン mein

---

「こう」や「ぞう」のような、「おお」と発音される組み合わせは、ōで表します。

こうぞう (構造) kōzō

母音の長さを表すのに u や h は使いません。Kuukai, Kuhkai, kouzou, あるいは kohzoh のような綴りは避けてください。ただし、人名 (Satou や Itoh など) に関して、本人の好みが変わっている場合には、例外とすることができます。

長母音が二つの漢字で表される場合は、長音記号を使う代わりに母音の文字を繰り返します。

ばあい (場合) baai (×bāi)

きいはんとう (紀伊半島) Kiihantō (×Kīhantō) または Kii Peninsula  
(×Kī Peninsula)

かつうら (勝浦) Katsuura (×Katsūra)

いせえき (伊勢駅) Ise Eki (×Isēki) または Ise Station

こうた (小唄) kouta (×kōta)

ā, ī, ū, ē, ō のような、直線の長音記号を使うには、ユニコードのフォントまたはその他の特殊なフォントが必要になります。コンピュータでこれらの文字が使用できない場合には、代わりに â, î, û, ê, ô のような曲折アクセントを使ってもかまいません。

想定される読者が日本や日本語に馴染みの薄い場合や、電子メールやインターネット上など、長音記号を使うのが技術的に難しい場合には、長音記号は使わず、Kukai や kozo などと表記します。

日本語の発音を明示する必要があるのではない限り、Tokyo や Osaka のようなよく知られた地名や、“bento” や “judo” のように英語に取り入れられた日本語の単語には、長音記号は使いません。

## ▷ 促音

小さい「っ」で表記される促音は、多くの場合英語の子音の文字を重ねて表記します。

かった katta

いっぼう ippō

ぶっだ budda

sh で始まる音節の前では、促音は s で表します。

あっしゆく asshuku

ch と ts の前では、t を使います。

あっちやく atchaku

よっつ yottsu

---

## ▷ 「ん」

「ん」が単語の末尾あるいは y 以外の子音の前にある場合は、n を使います。

しんかんせん shinkansen

ひとつの単語の内部で、「ん」が母音や y の前にある場合には、n の後にアポストロフィ[']を入れます。

ほんい hon'i

ほんやく hon'yaku

アポストロフィを入れるのは、たとえば honyū (ほにゅう、哺乳) と hon'yū (ほんゅう、本有) を区別するためです。

「ん」は b, p, m の前ではしばしば m と書かれますが、単純化するために、すべての場合において n を使うことを勧めます。

とんぼ tonbo (×tombo)

しんぱい shinpai (×shimpai)

さんま sanma (×samma)

## ▷ ハイフン

ハイフンの使用は可能な限り避けてください。

西葛西 Nishi Kasai (×Nishi-Kasai)

常識的 jōshikiteki (×jōshiki-teki)

山の手線 Yamanotesen または Yamanote Line (×Yamanote-sen)

例外は敬称と、地名の接尾辞です。

田中さん Tanaka-san

落合君 Ochiai-kun

高松市 Takamatsu-shi または Takamatsu City

神奈川区 Kanagawa-ku または Kanagawa Ward

## ▷ 大文字の使用

文頭のみを大文字にする表記法 (sentence capitalization) を使う場合は、固有名詞、文頭の単語、その他英語で最初の文字を大文字にする単語のみに大文字を使います。はっきりしない場合には小文字を使います。以下の例は本の題名です。

『帝国アメリカと日本 武力依存の構造』

*Teikoku Amerika to Nihon: Buryoku izon no kōzō*

『クマのプーさん』

*Kuma no Pū-san*

---

『生き生きまちづくり 埼玉県志木市の挑戦』

*Ikiiki machizukuri: Saitama-ken Shiki-shi no chōsen*

最初と最後の語、及びすべての主要な語の最初の文字を大文字にする表記法 (title capitalization) を使う場合は、助詞以外のすべての単語を大文字で始めます。こちらは定期刊行物の名前です。

『高圧力の科学と技術』

*Kōatsuryoku no Kagaku to Gijutsu*

## ▷ 単語の区切り方

句や文章を書き換える場合、名詞、代名詞、動詞、形容詞、副詞、助詞はすべて別々の単語として書きます。動詞と形容詞の活用語尾は語幹と同じ単語に含みます (kakimasu, ×kaki masu; omoshirokatta, ×omoshiro katta)。動詞の「する」形は別の単語として扱います (kakunin shita, ×kakuninshita)。-te あるいは -de で終わる語形の動詞の後にはスペースを入れます (kangaete iru, ×kangaeteiru)。「は」、「へ」、「を」などの助詞は wa, e, o と綴ります。次は、その例です。

日本国民は、正当に選挙された国会における代表者を通じて行動し、われらとわれらの子孫のために、諸国民との協和による成果と、わが国全土にわたって自由のもたらす恵沢を確保し、政府の行為によって再び戦争の惨禍が起ることのないようにすることを決意し、ここに主権が国民に存することを宣言し、この憲法を確定する。

Nihon kokumin wa, seitō ni senkyo sareta Kokkai ni okeru daihyōsha o tsūjite kōdō shi, warera to warera no shison no tame ni, shokokumin to no kyōwa ni yoru seika to, waga kuni zendo ni watatte jiyū no motarasu keitaku o kakuho shi, seifu no kōi ni yotte futatabi sensō no sankā ga okoru koto no nai yō ni suru koto o ketsui shi, koko ni shuken ga kokumin ni son suru koto o sengen shi, kono Kenpō o kakutei suru.

著作権：東京大学教養学部英語部会／教養教育開発機構、2009

<http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/eigo/romaji.html>

2009.04 v1